

小滝。水流の右側を直登する。このあと、1~3mの滝が3つ続く。いずれもホールド豊富で、楽に登れる。最初の4m滝が魚止めの滝となっているのか、魚の姿は出合付近以外では全くみかけなかった。

1mの小滝を越えると、左岸の斜面にクワの木が一面に生育しているのが見えてきた。かなりの急斜面であるが、クワの木ばかりである。純粋の野生桑とも思えない生育状況であり、昔養蚕を営んでいた名残とも考えられる。

さて、このあと沢は急傾斜のゴーロ状となった。地図によれば、もう源流に近いあたりに滝記号がある。それを信じてなおも進む。しかし、滝は全くかからない。地図の滝記号は間違いではないか、それとも滝が崩壊して急傾斜のゴーロ状と変わってしまったのだろうか、などと雑念がうかぶ頃になって、兩岸に岩場が現われ、沢は急に険悪な様相を呈してきた。兩岸の岩場が幅1mくらいにせまる。そして

その奥に5m程の滝。地図はやはり間違っていなかった。なんだかうれしくなる。滝の前は兩岸の岩場が幅1mほどにせまり、そこに橋を渡すような感じで大岩がのっかって、まるで門をくぐってから滝に取り付くような感じである。でも、滝自体はスタンス豊富で、シャワーで楽に直登可能であった。

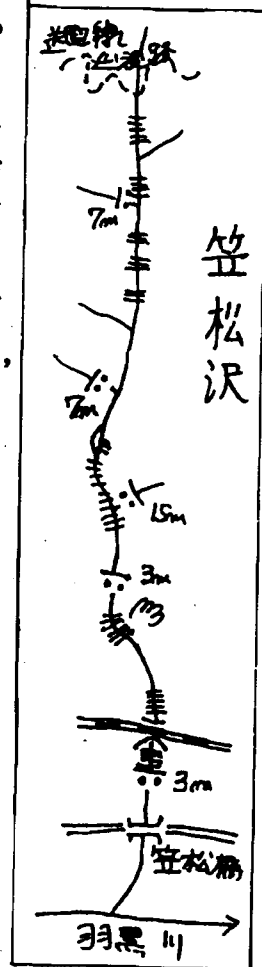
滝の上は急に平坦となり、沢は杉の造林地の中に消えてしまっていた。8:50遡行終了。(記・)

[タイム] 出合(8:10)→遡行終了(8:50)→出合(9:25)

笠松沢

1990年9月22日

山の中の湯治場という雰囲気を残す笠松鉱泉のすぐそばで羽黒川に合流する小沢が笠松沢である。10:10笠松橋よ



り遡行開始。

すぐに3mの滝。そしてその上は石積みの人工河川となり、レンガ作りのトンネルでJR奥羽本線の下を潜り抜けている。トンネルを出た所で、ちょっと地図を見ていたら、すぐそばの斜面にカモシカが姿を見せた。

このあと沢はナメが断続的に出てくる。しかし、滝は3mの小滝が1つだけ。ここはシャワーで楽に直登して上に出る。沢幅がだんだん狭くなってゆき、ついには小さな流れにすぎなくなってきた。遡行を開始してから45分、送電線の巡視路に出会った所で遡行終了とする。

(記)

[タイム] 出合(10:10)→遡行終了(10:55)

飯豊連峰北股川

1990年8月11～15日

L:

8月11日 福島(20:00)⇒加治川ダム(23:35)

8月12日 加治川ダム(7:10)→北股川出合(7:45)→観音滝(8:00)→彦兵エ沢出合(8:25)→青滝(9:00)→藤十郎沢出合(10:40)→ピバーク地(15:45)

夜半雨が降ったが、濁りや増水はなし。7:45入溪。ゴーロ帯を進む。左手の滝をかけた支沢2本を過ぎると、7mの観音滝。左手草付を登り、滝上部に降りる。この後はゴーロ帯が続くが、左手からの彦兵エ沢出合を過ぎるとゴルジュとなり、淵が現われ、泳ぎや渡渉で通過する。

青滝20mは、左側壁を1Pで登り、落口ヘクライミングダウン。ここの通過には1時間半を要した。この後は15～20mの滝をかける支沢が現われる。本流には5m前後の淵をもった滝が出て来るが、側壁に取り付いて通過できる。

10時40分、2段25mの滝をかける藤十郎沢出合に達する。このあたりからゴルジュは狭まり、泳ぎが多くなる。ゴルジュ内の滝10m、4mは、右手を2時間の